



<http://www.jsme.net/>



「音楽づくり／創作」における「指導と評価の一体化」の実現に向けて

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 河合 紳和

コロナ禍で「歌唱」や「器楽」の活動が制限される中、全国の小・中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽の授業において「音楽づくり／創作」や「鑑賞」の授業に多くの時数が充てられることになりました。とりわけ「音楽づくり／創作」の授業は、1人1台端末等の整備が急速に進んだことに勢いを得て、ICTを活用した「音楽づくり／創作」の実践が全国的に増加したように思います。初めは手探り状態から取り組み始めた授業も、先生方お一人お一人の挑戦と創意工夫によって、あるいは各研究会等での研究の積み重ねを経て、素晴らしい実践事例が数多く紹介されています。

ICTを活用した「音楽づくり／創作」の授業では、先生方からしばしば「誰でも音楽をつることができる」と効果を実感する声を聞きます。しかしながら、ここで確認しておきたいのは「音楽をつることができる」と「音楽をつることができるようになる」とは違うということです。これを評価の視点で言うならば、私たちは子供たちのつくった「作品」を評価するのではなく、子供たちの「学習」を評価することが大切であるということです。

例えば、中学校の「創作」の授業では、指導が「課題や条件」の提示と端末の音楽ソフトの機能の説明に終始し、あとは「生徒まかせ」に創作表現を創意工夫させる授業が少なからず見られます。こうした授業では「知識」や「技能」の習得が置き去りにされてしまっていることが多いように感じます。「音のつながり方の特徴や音の重なり方」、「反復、変化、対照などの構成上の特徴」などについて、実感を伴った理解によって「知識」を習得する場面や、知識や技能を得たり生かしたりしながら音楽表現を創意工夫し、それを旋律や音楽で表現するための音の選択や組合せなどの「技能」を確実に身に付ける場面を明確に設定することが重要です。

また、中学校第2学年及び第3学年では、学習指導要領における「創作」の内容のうち「思考力、判断力、表現力等」の指導事項に「まとまりのある創作表現を創意工夫すること」を示していますが、ここでの「まとまりのある創作表現」とは「作品を1曲完成させること」に限定するものではありません。子供たちが「音楽における〈まとまり〉とは何だろう」、「〈まとまり〉を感じる音楽と〈まとまり〉を感じない音楽は何が違うのだろう」などと考えながら、「どのようにすれば〈まとまり〉を感じさせる音楽になるか」を試行錯誤しながら創意工夫することが大切です。

近年、「評価」に対する先生方の関心が一層強くなっていると感じますが、逆に「評価」に注目するあまり「指導」の充実に意識が向かいはくなくなってしまうことを懸念します。授業研究会等では、しばしば「何を評価すればよいか」というご質問をいただくことがあります。「何を評価するか」が不明瞭であるということは「どのような資質・能力を育成しようとしているか」が不明瞭であることを意味しており、まずは題材構想まで立ち返って学習活動全体を見直す必要があると言えます。

授業づくりや授業改善では、常に「指導」と「評価」を一体的に考えながら研究を進めていくことが重要です。育成を目指す資質・能力をどのように相互に関連付けて指導するか、指導したことをどのように評価に繋げるか、評価の結果を学習改善や指導改善にどのようにフィードバックさせるかなど、先生方が実践の中で得た経験や知見を共有し合いながら、「指導と評価の一体化」の実現に向けて今後ますます研究が進められることにご期待申し上げます。

第28期（前期）会長・部会長・事務局長の紹介

（○は、新規就任）

※第28期（前期）の役員改正は、下記の通りです。正式には、今秋の全国大会富山大会時に開催の本部全国理事会でご承認いただきます。

- 会 長 : 福井直昭（武蔵野音楽大学学長）
- 顧 問 : 小松康裕（武蔵野音楽大学講師）
- 事 務 局 長 : 菊本和仁（武蔵野音楽大学講師）
 - 小学校部会部会長 : 玉野麻衣（東京都大田区立調布大塚小学校校長）
 - 同 事務局長 : 村田悦子（東京都千代田区立和泉小学校校長）
 - 中学校部会部会長 : 荒川徳子（東京都府中市立府中第七中学校校長）
- 同 事務局長 : 清野淳子（東京都葛飾区立一之台中学校校長）
 - 高等学校部会部会長 : 玉井 操（東京都立総合芸術高等学校校長）
 - 同 事務局長 : 井上雅文（東京都立三田高等学校主幹）
- 大学部会 部会長 : 加藤徹也（武蔵野音楽大学教授）
- 同 事務局長 : 中村岩城（玉川大学教授）

就任のご挨拶



本部事務局長 菊本 和仁

平成27年から8年間にわたり、本会の発展にご尽力いただいた小松康裕本部事務局長が3月末をもって退任されました。小松先生は、全日音研全国大会の安定的・継続的な開催に向けた小中学校部会大会の地区輪番制の実現等に多大なるご尽力をされました。この他にも様々な大きな功績を残されたことに敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。

本年4月より後任として本部事務局長を務めさせていただくことになりました。「わが国音楽教育の向上発展に寄与」という全日音研の目的を自覚し、全校種の協働研究、全国の教科実践研究の連携という組織特性を更に充実させ、全国の音楽教育を繋ぐ役割をはたして参ります。学校教育を取り巻く環境変化の見通しが不透明な今、皆様のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

令和5年度（第28期前期）就任の新部会長・新事務局長ご挨拶 ご挨拶



全日本音楽教育研究会大学部会 部会長 加藤 徹也 （武蔵野音楽大学教授）

このたび、前任の河野正幸先生の後任として大学部会長に就任いたしました。微力ながら音楽教育の発展に向けて力を尽くす所存です。同じく事務局長に就任された玉川大学の中村岩城先生とともに新体制で職務に臨みますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の大学部会大会は、11月25日（土）に、我が国の音楽教育の礎となる東京藝術大学にて開催いたします。これまで大学部会に他校種の先生方にもご参加いただけるような企画を検討して参りました。今回は富山大会と開催時期が離れておりますので、ぜひ多くの先生方にご参加いただきたく存じます。

現在、大学部会では会則の改正が重要な課題となっています。長年に及ぶ活動の中で各大学では教員の交替が進みました。一昨年に大規模な調査を行い、現状の把握に努めてまいりましたが、会費の納入や、会誌の送付・研究会情報等のきめ細かなご提供などの諸課題に対してよりの確な対応を図るべく検討を進めております。関係の方々にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、これまでの先輩諸氏が築き上げてこられた伝統と和の精神を大切にしていきたいと考えておりますことをお伝えし、就任の挨拶とさせていただきます。

現代社会に貢献出来る大学部会を目指して



全日本音楽教育研究会大学部会事務局長 中村 岩城
(玉川大学芸術学部教授)

この度、小佐野圭先生の後任として全日本音楽教育研究会大学部会の事務局長として大学部会の運営に携わらせて頂きます玉川大学芸術学部音楽学科の中村岩城と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

大学では専門のオルガン実技の他、教職課程履修者のピアノ実技、ソルフェージュといった科目を担当し指導をしております。

近年デジタル社会として著しく発展しているこの時代に、音楽教育の分野が、社会とどのように関わり、どのような教育者を育成し、どのような授業を行う必要があるのかを、会長に就任された加藤徹也先生をはじめ、多くの先生方と共に考え、これからの社会に貢献する役割を担う大学部会となるよう努力して参ります。

2023年はコロナウィルス感染症もようやく収束の方向に進んでおります。この3年間で培った色々な知識と技術が音楽教育の現場でも活かせることを願っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご挨拶



全日音研中学校部会事務局長 清野 淳子
(葛飾区立一之台中学校校長)

各都道府県、政令指定都市等支部長、事務局長の皆様には、日頃より中学校部会の活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

令和5年度より事務局長を務めております清野 淳子と申します。前事務局長からお声掛けをいただき、令和元年より本会に関らせていただいておりますが、この三年間はコロナ禍にあり、各支部の皆様とはこれまで電話やメール、オンラインで情報交換をさせていただいておりました。この度、大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

さて、5月にはマスクの着用をはじめとする感染症対策が段階を追って緩和される見込みですが、学校教育の中では、子どもたちの反応や様子を見ながら進める必要があると考えております。また、音楽教育においても以前の教育活動と同様の活動に戻すのではなく、ポストコロナの、より充実した教育活動の復活・創造が求められます。子どもたちが心の底から音楽を楽しむことができる音楽教育を目指して、引き続き各都道府県の先生方と連携を深めながら、音楽教育の一層の発展に向け尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

[退任のご紹介]

第27期後期をもって、大学部会会長：河野正幸様（聖徳大学教授）、大学部会事務局長：小佐野圭様（玉川大学教授）、中学校部会事務局長：佐藤隆弘様（東京都葛飾区立葛美中学校校長）がご退任されました。長きにわたり全日音研の発展にご尽力されましたこと、心より感謝申し上げます。



大会会長 宮崎 新悟
（富山県授業力向上アドバイザー）

大会主題 「つなぐ 深める ひびき合う ～豊かな音楽の学び～」

令和5年10月26日(木)・27日(金)の両日、富山市において全日本音楽教育研究会全国大会富山大会を開催します。授業会場及びワークショップ会場となる富山市民芸術創造センター、呉羽中学校、呉羽高等学校は市内呉羽地区に位置し、徒歩5分圏内に隣接します。また、全体会場となる富山市芸術文化ホールは、富山駅北口徒歩2分に位置します。参加していただく皆様にとって移動のしやすさは富山大会の大きな特徴の一つです。

ここ数年間、音楽活動に対して様々な制限がありましたが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付が5類に引き下げられる方針が決まりました。音楽活動を楽しみ、学びを深めていく児童生徒の素敵な姿や表情が溢れる大会になるよう、準備を進めています。

◆ 大会主題について

富山大会で掲げた大会主題は「つなぐ 深める ひびき合う ～豊かな音楽の学び～」

「つなぐ」とは、児童生徒と音楽をつなぐことです。おもしろいなあ、すてきななあ、この音楽はどんな仕組みでできているのだろうなどと音楽に関心を寄せ、もっと表現したい、もっと聴きたいと、児童生徒が自ら音楽活動をする姿を引き出したいと考えます。

「深める」とは、児童生徒の学びを深めることです。表現が深まる、聴き方が深まる、知識が広がる、技能が高まる、音楽を愛好する心情が深まるなど、音楽とのつながりを深めたいと考えます。さらに、自分の表現の高まりを実感して自信を深めていくことも期待しています。

「ひびき合う」とは、文字通り、旋律やハーモニーがひびき合い、音や音楽の心地よさを感じ取ることができる状況が生まれることです。さらに、音楽のよさや面白さ、美しさを求めて共に活動する者同士の心と心がひびき合って信頼関係を深めたり、そうして得られた充実感が次の意欲になったりすることも期待しています。

◆ 大会の見どころ

○1日目(10/26)の午前は、小学校6本、中学校4本、高等学校2本の公開授業と研究協議を行います。午後からは、合唱・歌唱、合唱指導、音楽づくり・創作、鑑賞、日本の音楽という5部会のワークショップを行います。特に日本の音楽では、越中五箇山こきりこ唄保存会の岩崎喜平さんを交えて、日本最古の民謡「こきりこ」の魅力に迫ります。

○2日目(10/27)には全体会を開催します。全体会を締めくくる記念演奏では、あまり例を見ない小学生によるスチールドラムの演奏を皮切りに、小中学生による郷土芸能「こきりこ」、中学生による学年合唱、県内で唯一音楽コースをもつ呉羽高等学校のオーケストラと特別編成の合唱団による合唱奏など予定しています。瑞々しい演奏を味わい、二日間の大会の成果と感動を皆様と共に共有できる場にしたいと考えています。

第2次案内は、全日音研ホームページの〈全国大会富山大会〉ページに7月1日に掲載し参加申し込みも開始し、更に各支部のご協力をいただき全国の学校にデータ配信する予定です。深まりゆく秋の富山に集い、研修を深め、富山の味覚を味わっていただきますよう、多くの皆様のご参加をお待ちしています。